山梨県埋蔵文化財センター報告書　第300集

大坪遺跡（おおつぼいせき）

－ 国道140号緊急道路整備改築事業に伴う発掘調査 －

２０１５．３

山梨県教育委員会
山梨県県土整備部

山梨県埋蔵文化財センター報告書　第３００集

大坪遺跡

二〇一五・三

山梨県教育委員会
山梨県県土整備部

大坪遺跡

おおつぼいせき

－ 国道140号緊急道路整備改築事業に伴う発掘調査 －

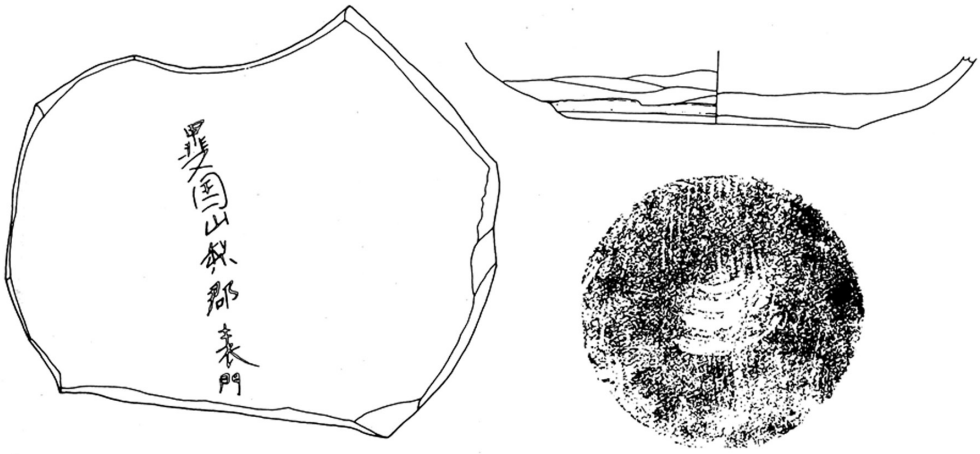
２０１５．３

山梨県教育委員会
山梨県県土整備部

大坪遺跡調査報告書のあらまし

大坪遺跡は甲府市桜井町を中心に大規模に展開する奈良・平安時代の遺跡です。今回の調査地点はその大坪遺跡北東部の縁辺部にあたる場所で、国道１４０号緊急道路整備修繕事業に伴いおおよそ、２００㎡の狭い範囲を発掘調査しました。ここは、甲府盆地北側の山塊から流れ出てくる十郎川などが作った扇状地上の標高約２６０m地点にあることなどからこの地域は粘土質の土壌が豊富にあり、戦前から近年まで屋根瓦の生産が盛んな場所でした。また、古代においても白鳳時代から奈良時代にかけて寺本廃寺や国分寺・国分尼寺への供給が行われた川田瓦窯跡が東側に隣接して存在しています。

遺跡の周辺では、北側に積石塚で有名な横根・桜井古墳群、東側には川田瓦窯跡と桜井畑遺跡、西側には奈良時代の小金銅仏が出土した東畑遺跡など古代から平安時代の遺跡がみられます。



十郎川河床より出土した刻書土器

序　文

本書は、2014（平成 26）年度に甲府市桜井町地内で計画されている国道 140 号線（青梅街道）の十郎橋西交差点改良工事に先立って実施した、大坪遺跡の発掘調査報告書であります。

大坪遺跡は、甲府市の東部に位置する桜井町と横根町に広がる奈良・平安時代の大遺跡であります。この遺跡は、昭和 50 年 3 月に国道 140 号線改良工事に伴い発見されまして、同年 5 月に中央本線を挟んだ南北 2 カ所におきまして、山梨県遺跡調査団によって初めて本格的な発掘調査が行われ、昭和 51 年 3 月に発掘調査報告書『大坪』が刊行されました。

昭和 57 年 11 月～ 12 月に十郎川河川改修工事に伴い、甲府市教育委員会によって発掘調査が実施されました。この調査によって多くの土師器が出土しましたが、中でも「甲斐国山梨郡表門」と箆状の工具によって内面底部に刻書された甲斐型坏が発見されました。この刻書は、「かいこく・やまなしごおり・うわと」と読め、平安時代の甲斐国山梨郡に所在した「表門」の郷名を表記したものでありまして、ほぼ同時期に発見された韮崎市中田町の西町遺跡出土の「葛井」（ふじい）と書かれた墨書土器、旧一宮町松原遺跡出土「石和東」等とともに、古代郷配置の研究に大きな影響を与えました。

その後大坪遺跡は、1994 年に社会福祉法人の施設建設に伴い、また 2000 年にも社会福祉法人の施設建設に伴いまして、それぞれ十郎橋西交差点の南東側が、甲府市教育委員会によって発掘調査されて、発掘調査報告書『大坪遺跡』として多大な成果が報告されております。

本調査は、交通量の多い交差点に隣接するごく限られた面積でありましたため、現場では安全対策や排土の切り回し等、困難を極めた調査となりました。

このような状況下でも無事に調査が終了できましたことは、関係機関各位のご協力と発掘調査作業に従事された方々の御労苦によるものと、心から感謝申し上げます。

最後に、この調査報告書が、山梨の古代史研究の一助となれば幸いに存じます。

2015 年 3 月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　八 巻 與 志 夫

例　　言

1　本書は山梨県甲府市桜井町 634 － 3 に所在する大坪遺跡の発掘調査報告書である。

2　本書は県土整備部の依頼を受けて山梨県教育委員会が実施した国道 140 号緊急道路整備改築事業に伴う発掘調査である。

3　発掘調査及び整理作業刊行は山梨県埋蔵文化財センターが実施した。

4　本書の執筆は第 2 章第 1 節を浅川一郎が、その他を吉岡弘樹が執筆した。

5　発掘調査に際して基準点測量を昭和測量株式会社を委託した。

6　本書にかかわる出土品および図面、写真は山梨県埋蔵文化財センターが保管する。

7　本書をまとめるにあたり甲府市教育委員会志村憲一氏よりご指導いただいた。記して感謝するしだいである。

凡　　例

1　遺構の層序等は現地調査での番号を踏襲した。

2　全体図は 1/200 を基準とし遺構実測図は 1/60・1/40・1/30、遺物実測図は 2/3・1/3 の縮尺とし各スケールを付した。

3　遺構観察表および遺物観察表中において（　　）内の数値は残存値・推定値を表す。

4　遺物図版では須恵器は断面を黒塗り、灰釉陶器は断面を網点、内面黒色土器は黒色処理面を黒塗りとした。

目　　次

あらまし

序文

例言・凡例

目次

第１章　調査の経緯と経過…… 1

　第１節　発掘調査に至る経緯と経過…… 1

　第２節　調査の組織…… 1

第２章　遺跡周辺の環境…… 2

　第１節　地理的環境…… 2

　第２節　歴史的環境…… 4

第３章　発掘調査の方法および基本層序と概要…… 5

　第１節　発掘調査の方法…… 5

　第２節　基本層序…… 6

　第３節　調査の概要…… 6

第４章　発見された遺構と遺物…… 7

第５章　調査の成果と課題…… 9

写真図版

挿図目次

第１図　遺構全体図…… 10

第２図　第１～第３号住居跡　平・断面図…… 11

第３図　第４号住居跡・第２号溝状遺構・第２号土坑　平・断面図…… 12

第４図　第１号溝状遺構・第１号暗渠・第１号土坑　平・断面図…… 13
第５図　出土遺物１…… 14
第６図　出土遺物２…… 15
第７図　出土遺物３…… 16

表 目 次

第１表　出土遺物観察表１…… 17

写真図版目次

図版１…… 5
図版２…… 6
図版３…… 22
図版４…… 23
図版５…… 24

第１章　調査の経緯と経過

第１節　発掘調査に至る経緯と経過

国道 140 号緊急道路整備改築事業に伴った十郎橋西交差点改良工事が実施されることになった。平成 25 年８月５日から９日に当地を試掘調査したところ遺構・遺物の検出があり本格的調査が平成 26 年度になされることとなった。このため、県土整備部の依頼を受けて、山梨県教育委員会により約 200㎡の発掘調査が計画された。当調査地は交差点の北西に面しておりその西側を甲府市教育委員会が同時期に調査にあたっている。発掘調査は平成 26 年７月７日から８月８日までの１ヶ月間、整理作業は平成 26 年 12 月から３月まで４ヶ月間に渡り実施した。

なお、文化財保護法に基づく手続きは以下のとおりである。

平成 26 年７月 4 日　　文化財保護法第 99 条第２項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成 26 年８月 15 日　　文化財保護法第 100 条第２項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成 26 年８月 21 日　　終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成 27 年３月 20 日　　発掘調査・整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

第２節　調査の組織

調査主体　山梨県教育委員会

調査機関　山梨県埋蔵文化財センター

所長　八巻與志夫

次長　出月洋文

調査研究課長　保坂康夫

調査第三担当　吉岡弘樹　浅川一郎

発掘調査埋蔵文化財臨時職員

　内藤敏夫　望月孝次　北野礼子　水上喜正　中澤保　三神正士

整理作業短期間非常勤嘱託職員

　平川涼子

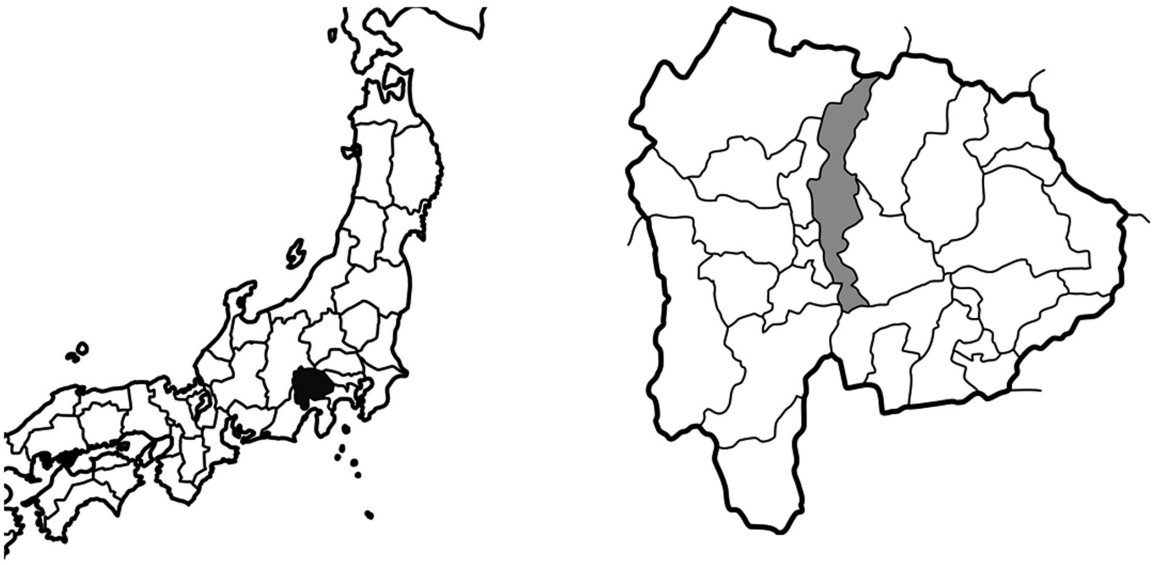
第２章　遺跡周辺の環境

第１節　地理的環境

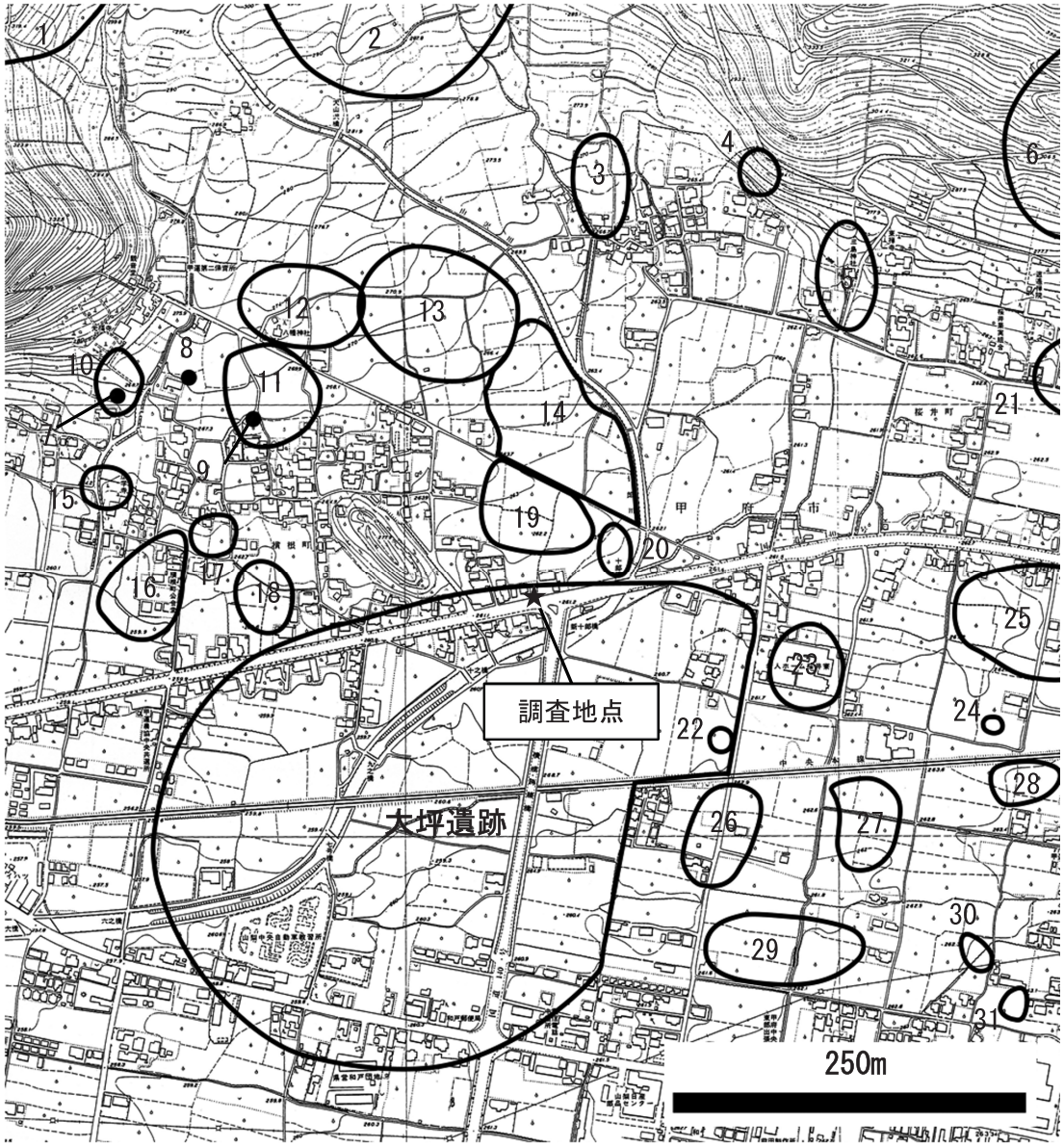
大坪遺跡は山梨県甲府市横根町・甲府市桜井町に位置する。北は県道６号線－国道 140 号線（青梅街道）周辺から南は国道 411 号線（甲州街道）周辺に至る範囲で、標高は 260 m前後である。地形的には甲府盆地北縁に位置し、北には安山岩質の火山岩類からなる秩父山地が迫っている。遺跡の北に位置する八人山（572 m）と大蔵経寺山（715.6 m）との間を南流する十郎川（上流は大山沢川）の周囲には沖積錐～土石流扇状地が形成されている。遺跡地のほとんどは笛吹川の扇状地に立地するが、北辺部は土石流扇状地の末端にあたる。

発掘調査の対象となる地点は、山梨県甲府市桜井町 634 － 3 番地他で十郎川西交差点北西隅に位置し、大坪遺跡北東部にあたる。地形的には笛吹川扇状地と十郎川土石流扇状地の境界付近であり、現地表面の標高は約 261.5 mである。

当地では、現代の盛り土を除くと遺構確認面が浅い。残存する遺構の掘り込みも少なく、遺構上部は耕作等で攪乱されている。当地の北に隣接する久保田遺跡や道々芽木遺跡でも遺構確認面が浅く、異なる時代の遺構・遺物が同水準から検出されている。以上から当地点では、少なくとも歴史時代以降は砂礫の堆積がほとんどない環境であったことが推察できる。増水時に浸水した可能性は高いが、氾濫の縁辺部で砂礫の供給はほとんどなかったと思われる。このように、調査地点周辺は長期間にわたり比較的安定した環境にあり、このことが後述する歴史的な発展をもたらした一因であると考えられる。



第１図　遺跡の位置



1．横根積石塚古墳群西支群
2．横根積石塚古墳群東支群
3．中屋敷遺跡
4．清水遺跡
5．中組遺跡
6．桜井積石塚古墳群西支群
7．横根山田古墳
8．村内１号噴
9．村内２号噴
10．山田光福寺遺跡
11．村内遺跡
12．八木沢遺跡
13．東畑遺跡
14．道々芽木遺跡
15．村内西遺跡
16．矢下大畑遺跡
17．村内南Ａ遺跡
18．村内南Ｂ遺跡
19．船山遺跡
20．久保田遺跡
21．新畑遺跡
22．十八田遺跡
23．梅之木遺跡
24．石川遺跡
25．上土器遺跡
26．見餅遺跡
27．横田遺跡
28．起田遺跡
29．長沢遺跡
30．八枚田Ａ遺跡
31．八枚田Ｂ遺跡

第２図　大坪遺跡の位置と周辺の遺跡

第２節　歴史的環境

縄文時代の遺跡は八人山から大蔵経寺山に僅かに分布している（地蔵堂遺跡・桜井畑遺跡・畦作遺跡・松本塚の越遺跡等）。弥生時代においても縄文時代の遺跡と同様で分布状況は薄いが上土器遺跡・桜井畑遺跡等から後期の土器が出土しており周辺部に集落等の存在を伺わせている。

古墳時代になると、当地域の遺跡の数が著しい増加をみせる。古墳では横根･桜井積石塚古墳群をはじめとし、琵琶塚古墳、太神さん古墳などの存在が知られている。他方、集落遺跡としては住居跡とともに方形周溝墓が発見された桜井畑遺跡、竪穴式住居跡が検出された神東遺跡や上土器遺跡等があげられる。

古墳時代の時期的な位置付けについては全国的に３世紀中葉から８世紀初頭とされている。甲斐国においては４中頃から５世紀の前期には甲府市の曽根丘陵に国指定史跡銚子塚古墳や丸山塚古墳、大丸山古墳などが展開する。６世紀以降になると勢力の拡散が起こったためか古墳の分布が盆地内にみられるようになる。笛吹市御坂町から同一宮町周辺、甲府市横根・桜井地区から笛吹市春日居町に至る地域などが挙げられる。特に後者の横根・桜井地区においては積石塚古墳が多く分布しており総数は 160 基ともいわれ、長野県千曲市の大室古墳群に次ぐ全国第２位の規模となっている。県内の他所でもみられるように古墳の造られた地域の多くは果樹経営が盛んに行われており多くの古墳が削平・消滅してしまっているのが現状である。

古墳の消滅する７世紀末葉には、当遺跡と近接した位置にある笛吹市春日居町に寺本廃寺が建造され、春日居地域に権力を有するような大勢力があったことが裏付けられよう。この地域の勢力は奈良・平安時代になっても続き笛吹市春日居町国府・同一宮町国衙・同東原とともに甲斐国府が置かれた候補地の一つにあげられている。

奈良時代になると国・評・里制が確立され、甲斐国にも山梨郡・八代郡・巨摩郡・都留郡の４郡が設置され、大坪遺跡は山梨郡に属していたと推測される。当遺跡からは昭和 57 年度調査では「甲斐国山梨郡表門」と刻書された土器が出土し当地が『和名類聚抄』に掲載されている山梨郡表門郷の範疇に入るということが確認されている。また、本遺跡に近接する東畑遺跡では竪穴式住居跡より白鳳期の小金銅仏が出土し、桜井畑遺跡Ａ地区からも「寺」と墨書された土器片が出土していることなどから遺跡地の近郊に寺院が建立されていた可能性を想定されている。さらに７世紀末に寺本廃寺に瓦を供給していた川田瓦窯跡がある。８世紀になると川田瓦窯跡とともに甲斐国分寺に瓦を供給していた上土器遺跡もあり大坪遺跡周辺は甲斐国府と関係の強い地域であったことがうかがわれる。

第３章　発掘調査の方法および基本層序と概要

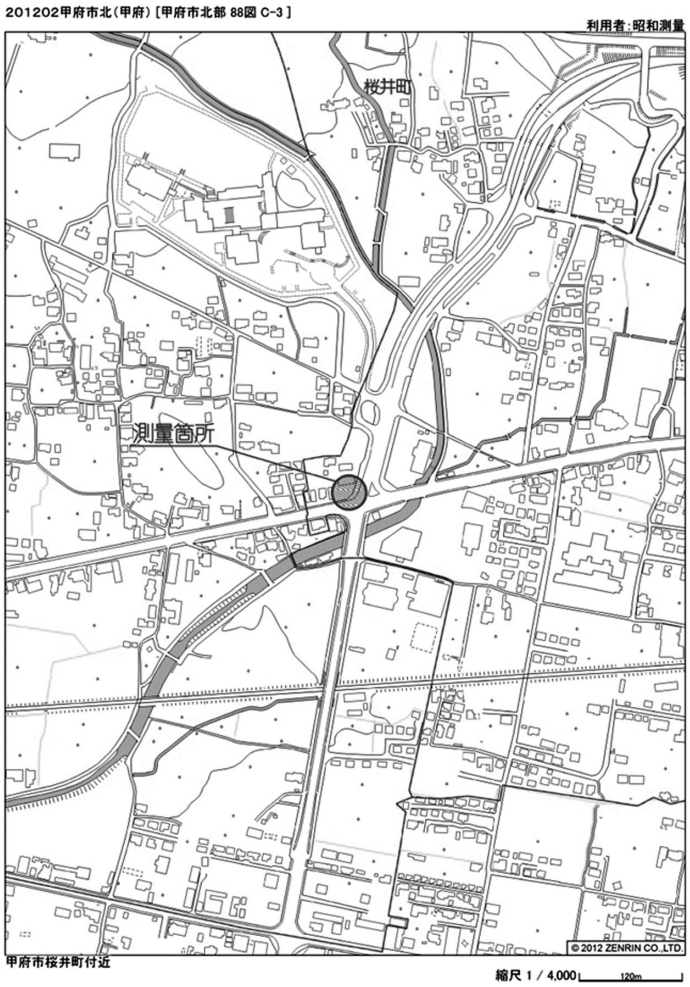
第１節　発掘調査の方法

調査区全体を覆うように１辺が５ｍの正方形のグリッドを設定し北から南にＡ、Ｂ、Ｃ・・・とアルファベット順に割り振り、西から東に１、２、３・・・と算用数字を割り当てていった。

調査は試掘の成果に基づいて遺構検出面直上まで平爪バケットを装着した重機による表土除去を行い、その後は鋤簾などを使用し遺構検出に努めた。

遺構の調査は土層セクション図、エレベーション図、遺構平面図、遺構内レベリング等を行い、遺物については直径５cm 以上のものについては位置データを計測した。測量法は遣り方測量で、グリッド杭に水糸を張り測量基準線とした。

写真図版１　測量杭設置状況

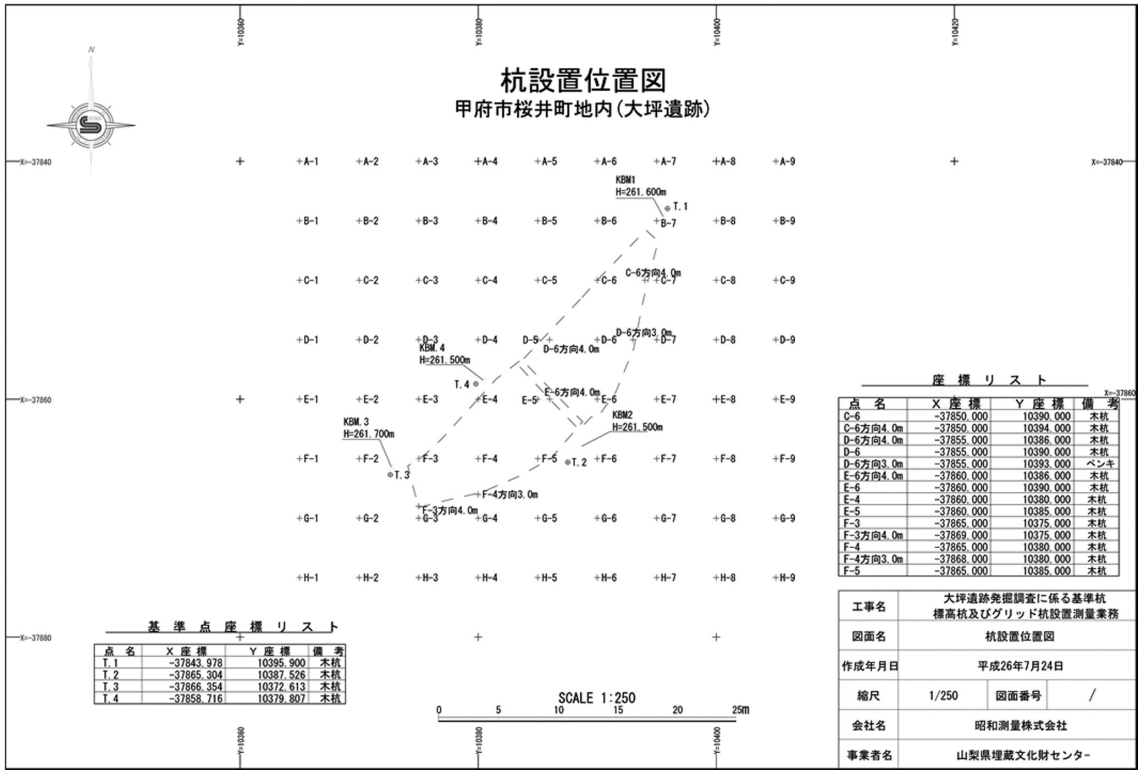


第３図　測量箇所位置図

なお、４カ所に基準杭を設置した（第４図）。

Ｔ－１　Ｘ座標　-37843.978
　　Ｙ座標　10395.900
Ｔ－２　Ｘ座標　-37865.304
　　Ｙ座標　10387.526
Ｔ－３　Ｘ座標　-37866.354
　　Ｙ座標　10372.623
Ｔ－４　Ｘ座標　-37858.716
　　Ｙ座標　10379.607

また、ベンチマークは第４図のとおりである。



第４図　杭設置箇所位置図

第２節　基本層序

当遺跡は狭い範囲の調査であるため基本層序は土層の安定したＦ－３区の調査区壁面にて土層観察を実施した。

約 20cm の表土層の下に 10 ～ 20cm の暗黒褐色土層がある。この層は撹乱もやや見られることから表土層に準じる層と捉えられるものである。続いてその下層には暗茶褐色土層（第３層）、淡茶褐色土層（第４層）とが約 10 ～ 25cm の厚みを持って堆積している。さらにその下層には 60cm の厚みを有する安定した遺物包含層の（明茶褐色土層・第６層）が観察できる。その下方には橙褐色土層が堆積していた。

写真図版２　基本層序観察状況

第３節　調査の概要

当地点は、平安期と類推する竪穴式住居跡が４軒、溝状遺構２条、土坑２基のほかに戦後の果樹経営の痕跡として棚を高架させるために杭を挿入したと類推されるピットと水捌けを良好に保つための暗渠が検出されている。

第４章　発見された遺構と遺物

今回の調査では竪穴式住居４軒、溝状遺構２条、土坑２基のほかに近代の果樹経営の痕跡である暗渠や棚を高架させるための柱痕（ピット）が検出された。ここでは、それぞれについて説明する

（１）竪穴式住居跡

第１号住居跡

Ｄ－５・６区に跨がって隅丸部分のみが検出された。深度は浅く主軸方向・竈の有無は不明である。なお、一部をピットに切られている。出土遺物は甲斐型杯及び蓋が出土している。これらは摩耗が著しいが口縁部の状況などから甲斐型編年のⅨ・Ⅹ期に比定されるものであろう。

第２・３号住居跡

Ｄ－６区の調査区外に伸びるように検出された。切合い関係は不明である。第２号住居跡の主軸方位はＮ－９°－Ｅに取る。第３号住居跡についての主軸方向は不明である。双方ともに深度は約 10cm と浅い。規模は第２号住居跡では長軸 2.5m を測る。遺物は双方の住居跡から時期を特定するには難しいほど細片化した平安期の杯が出土しており、いわゆる内黒の検出もみられた。

第４号住居跡

当住居跡はＧ－３・４区より検出されたもので第２号溝状遺構を切る形で一部分のみが検出された。主軸方向、規模などは不明である。なお、深度は概ね 10cm を測る。出土遺物は平安後期の杯片が極少量出土している。

（２）溝状遺構

第１号溝状遺構

Ｃ－６区より検出された。Ｎ－ 57°－Ｅに主軸を取り、長さは約 5.5m・幅は概ね１ｍを測る。深度は 10 ～ 20cm と一定していない。出土遺物は杯類を中心として平安後期の土器片が多量に検出されている。本調査で出土した遺物の大半はこの第１号溝状遺構より出土したことを付け加えておく。

第２号溝状遺構

Ｅ・Ｆ・Ｇ－４区より検出されたものである。主軸方向はＮ－ 20°－Ｅを取る。全長は約８ｍ、幅は 1.2 ～ 1.5m を測る。また、深度は約 20cm である。形状は直線に伸びた後に北側端部を左に曲げる。南側では第４号住居跡に切られている。また、不規則に西側の壁付近に杭列がみられた。なお、当遺構からの遺物の出土は無い。

（３）土坑

土坑は２基検出された。

第１号土坑

当土坑はＣ・Ｄ－６区に跨がって検出された。規模は長軸約 70cm・短軸約 60cm・深度約 10cm を測る。平

面形状は楕円形で坑底は平底で壁はやや急傾斜を持って立ち上がっている。出土遺物はⅦ期に比定される杯や高台杯が出土している。

第２号土坑

試掘調査時において検出されたもので、当区域の発掘調査実施の決め手となった土坑である。検出位置はＦ－４・５区に跨がっている。平面形は不整円形を呈しており、坑底は平坦で壁はやや角度を持って立ち上がっていく。長軸は 98cm・短軸は 78cm、深度は 34cm を測る。遺物の出土はない。

（4）ピット

ピットについてはすべてがぶどう棚の支線に係るものであるので割愛することとする。

第５章　調査の成果と課題

ここまで、今回の発掘調査の概要を示してきたが、約 200㎡という狭い範囲の中での調査状況においても、豊富な遺物が出土した。その大半が小破片化しており、さらにその多くが平安時代の所産であった。

今回の調査における最古の出土品は古墳時代須恵器大甕と長頸瓶であろう。大甕は胴体の中幅辺りのものが２点と長頸瓶の頸部が１点である。遺跡地の背後に大蔵経寺山や八人山が控え 150 基弱の古墳が群をなしていることは周知の事実である。さらに笛吹市春日居町地区には 41 基からなる春日居古墳群が確認されている。これらの古墳は概ね７世紀を主体として築造されているが、古くは６世紀にくい込むものも散見される。

第１号溝状遺構と遺構外からは多くの甲斐型土器が多量に出土している。特に第１号溝状遺構からの出土資料はその状況から廃棄を明確に示すものと言えよう。本地点での調査では生産について確証できる遺構は検出されなかったが、近接する道々芽木遺跡や 1994 年などの大坪遺跡調査例にみられるような焼土を伴った小規模な土師器焼成遺構を持っていた可能性が充分に考えられるものであろう。1994 年調査例では「数軒程度の小規模な工房と焼成窯が近接して存在していた」と想定されている。1975・1983・1994 年に加え、1999 年の道々芽木遺跡、2000 年の久保田・道々芽木遺跡の調査成果でも土器の廃棄された状況が確認されており、本遺跡から隣接する遺跡群一帯にかけて濃密な土器の生産がされ甲斐国内外に流通していたことから大坪遺跡を取り巻く一帯での生産規模は非常に大きかったと考えられよう。

引用参考文献

山梨県教育委員会　1976　『大坪』

神奈川県教育委員会　1983　「甲斐地域－シンポジウム奈良・平安時代の諸問題」『神奈川考古』第 14 号

甲府市教育委員会　1984　『大坪遺跡』

山梨県教育委員会　1988　上土器遺跡発掘調査報告『甲府市史研究』第６号

山梨県教育委員会　1989　山梨県埋蔵文化財センター報告第 50 集『桜井畑（Ｂ地区）』

山梨県教育委員会　1990　山梨県埋蔵文化財センター報告第 54 集『桜井畑（Ａ・Ｃ地区）』

山梨県教育委員会　1991　『横根・桜井積石塚古墳群調査報告』

山梨県考古学協会　1992　『甲斐型土器－その編年と時代』

甲府市教育委員会　1996　『大坪遺跡発掘調査報告書』

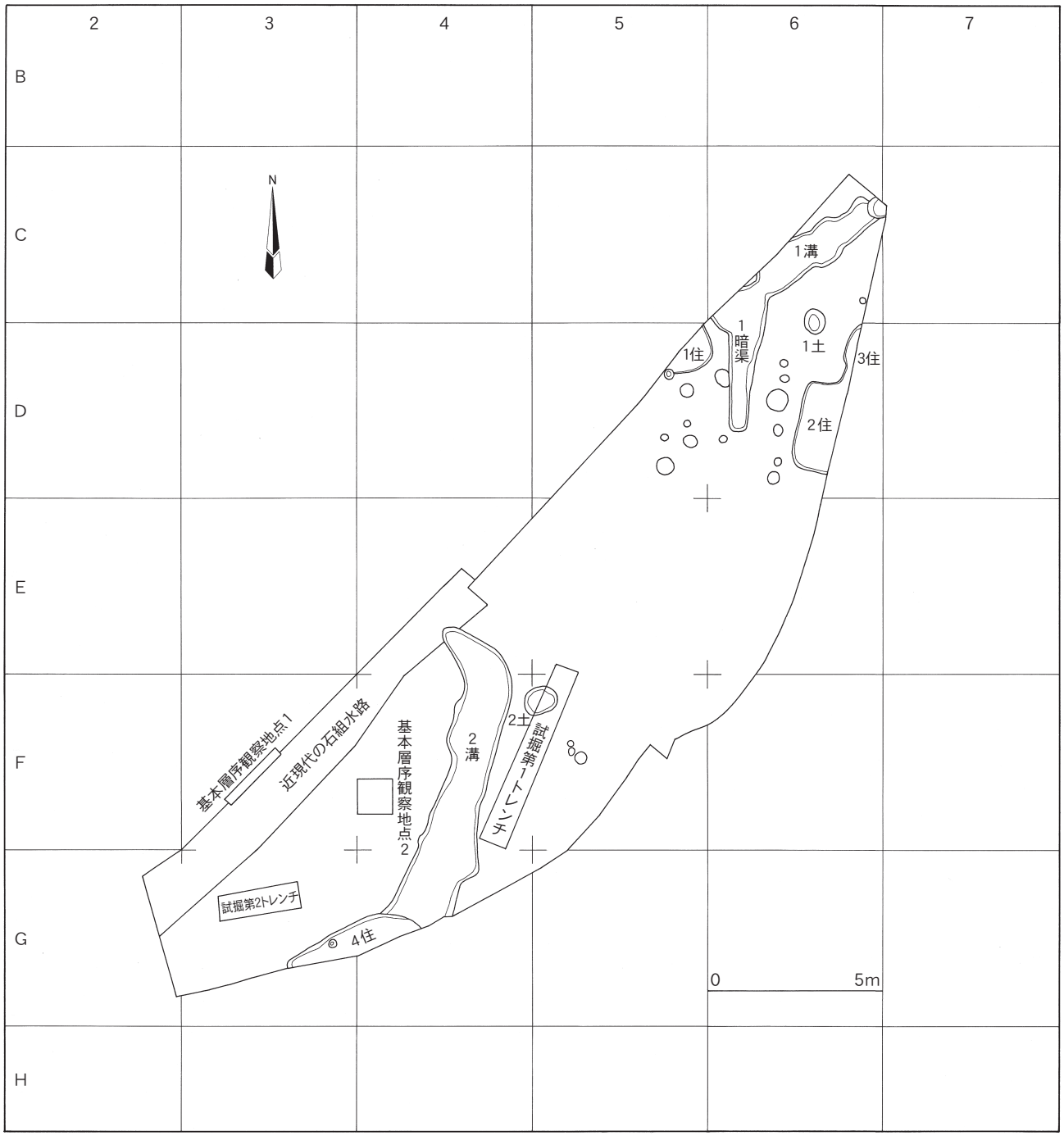
山　　梨　　県　1999　『山梨県史』資料編１

山　　梨　　県　2000　『山梨県史』資料編２

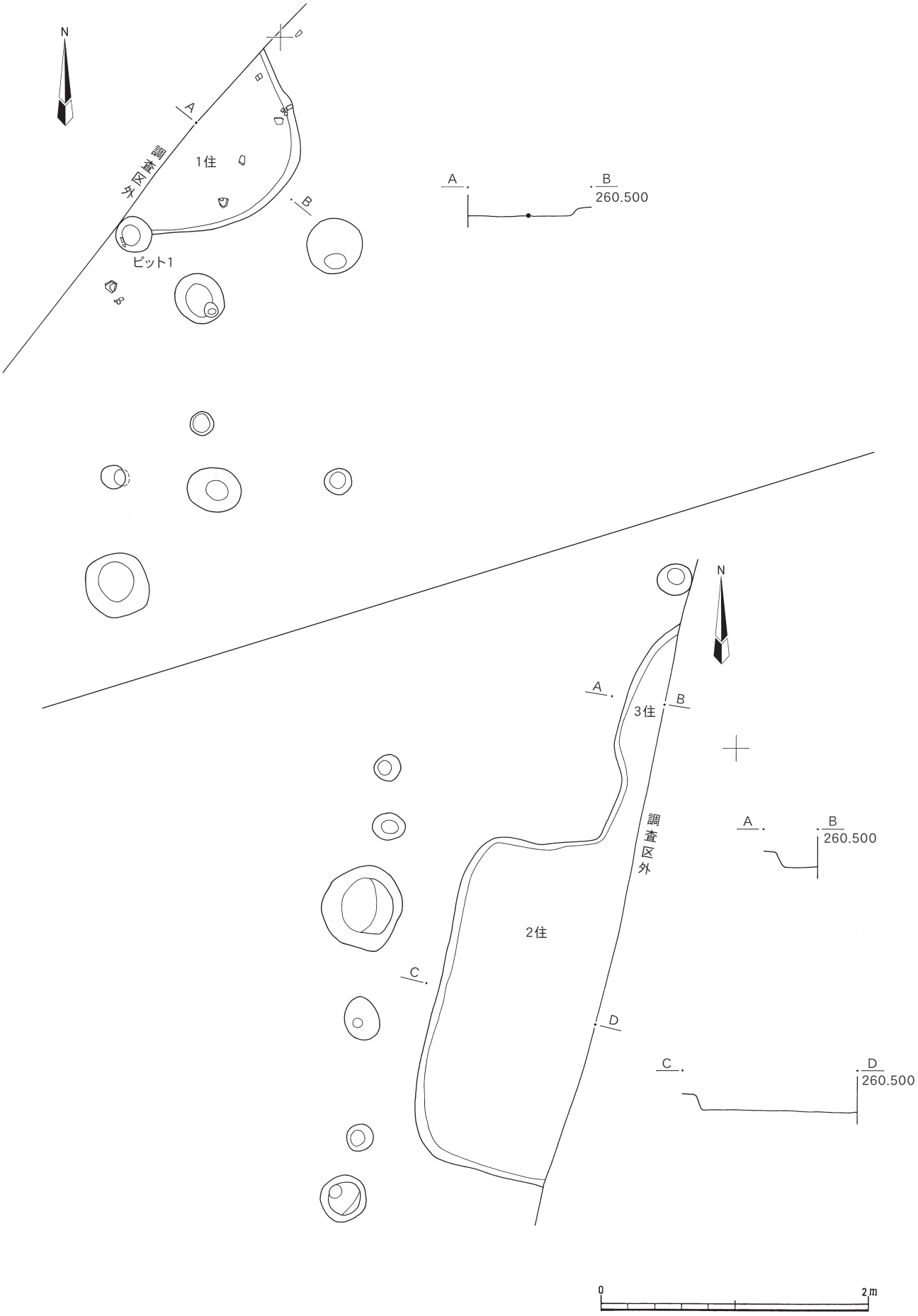
山梨県教育委員会　2001　山梨県埋蔵文化財センター報告第 188 集『道々芽木遺跡』

山梨県教育委員会　2002　山梨県埋蔵文化財センター報告第 197 集『久保田・道々芽木遺跡』

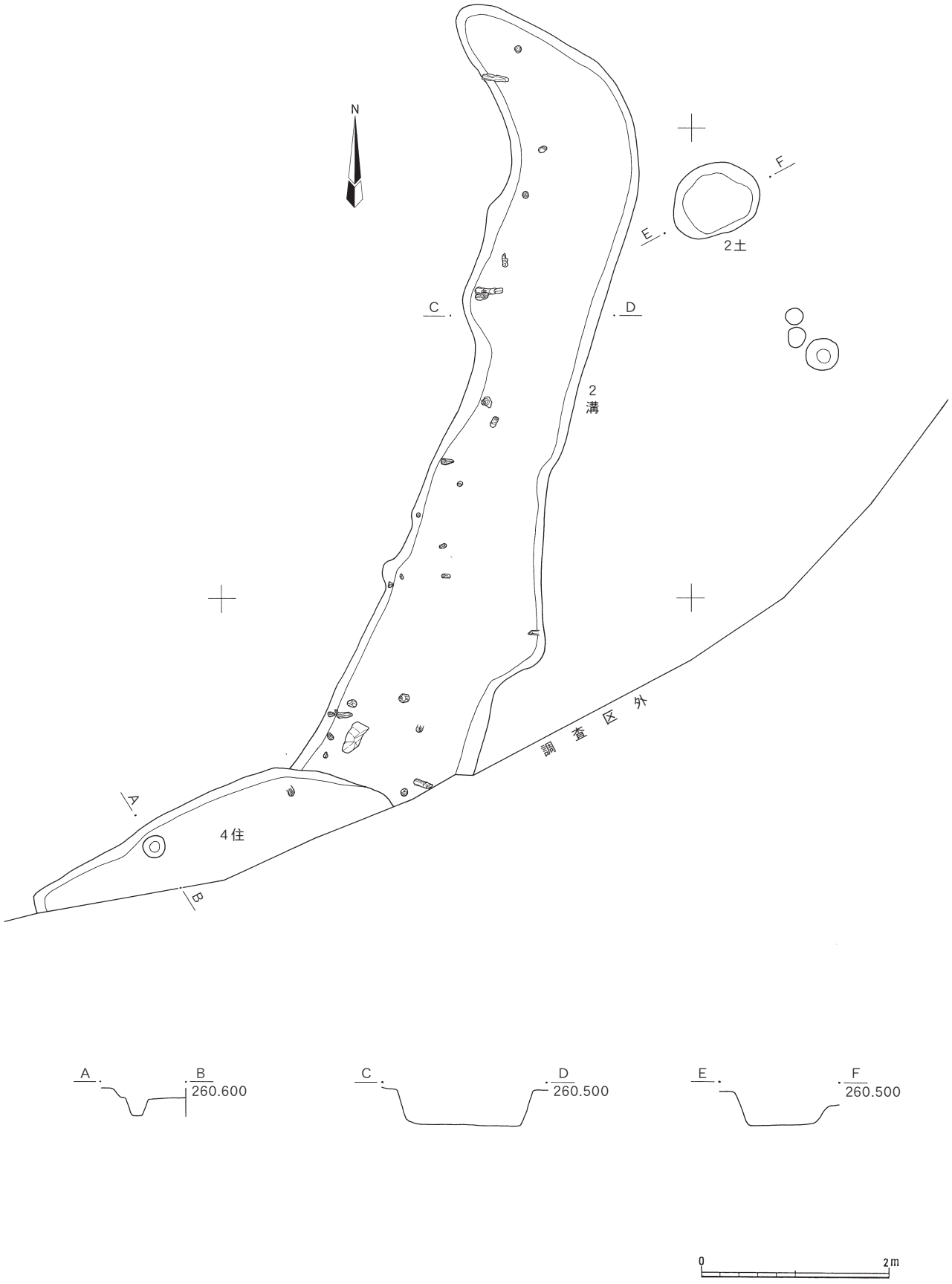
甲府市教育委員会他　2008　『山梨学院川田運動場遺跡群（桜井畑遺跡・亀田遺跡・川田久保田遺跡）』


2
3
4
5
6
7
B
C
D
E
F
G
H
N
1溝
1
暗渠
1土
1住
3住
2住
2土
試掘第1トレンチ
2
溝
基本層序観察地点2
基本層序観察地点1
近現代の石組水路
試掘第2トレンチ
4住
0
5m

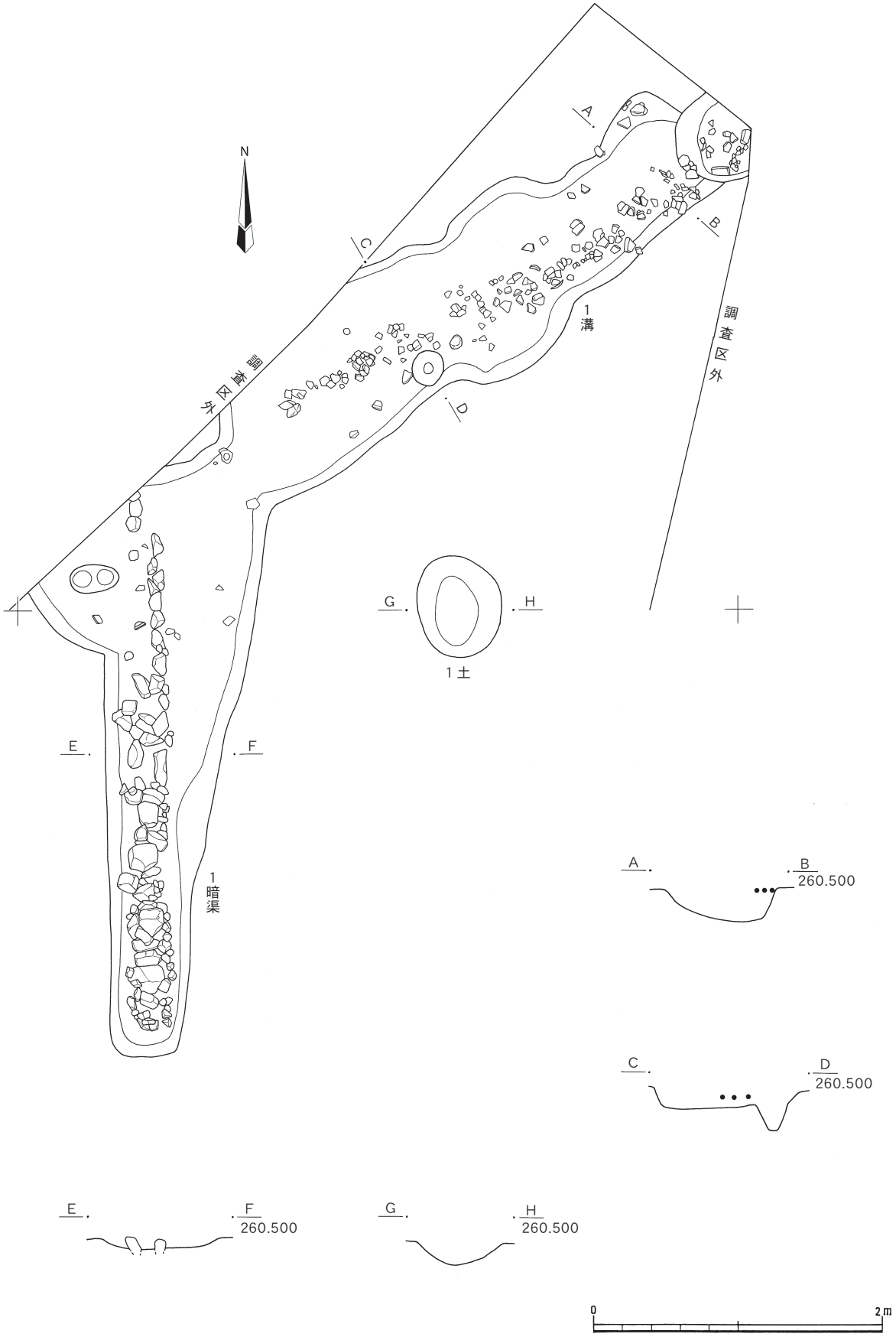
第1図　遺構全体図



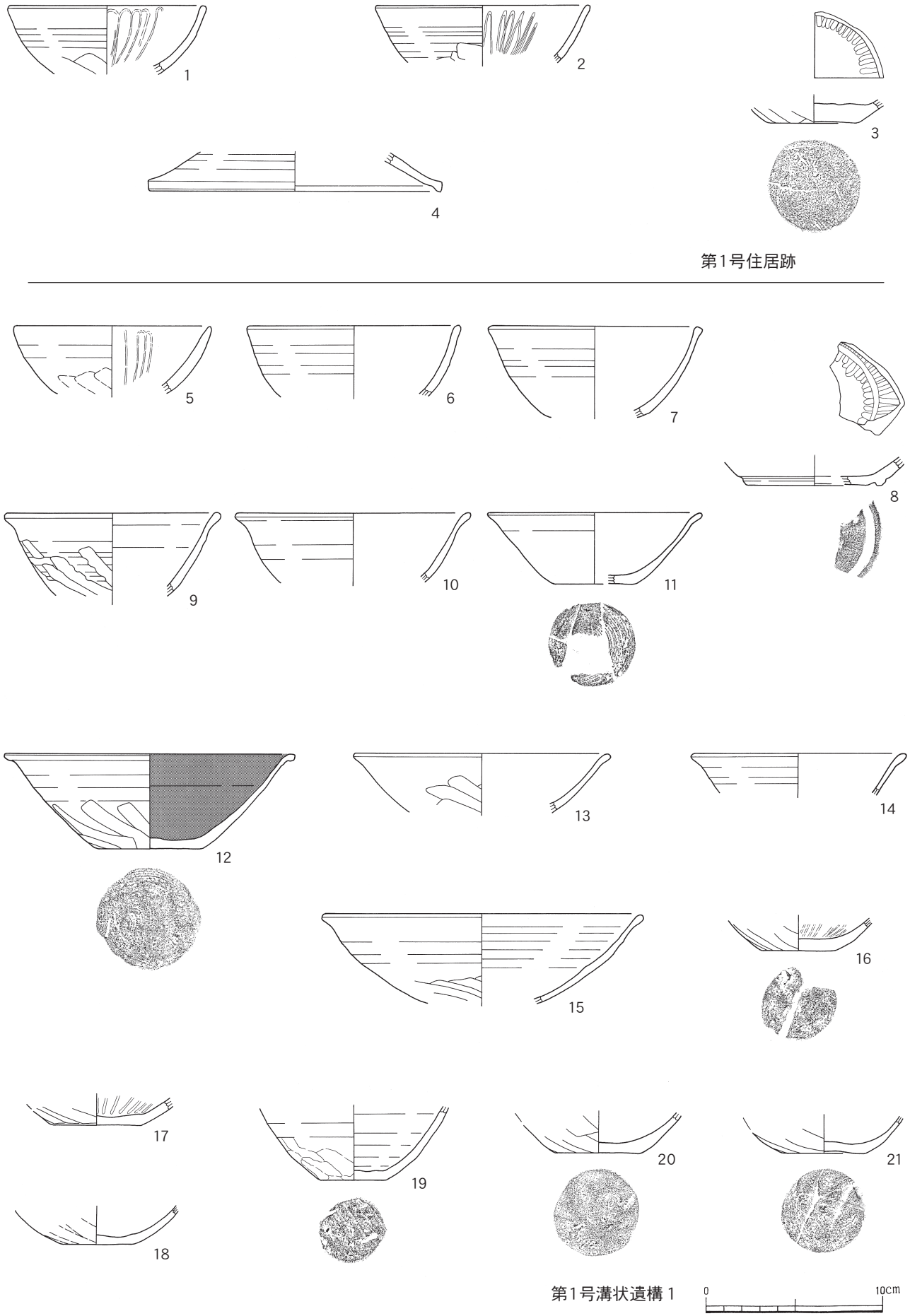
第2図　第1～第3号住居跡　平・断面図



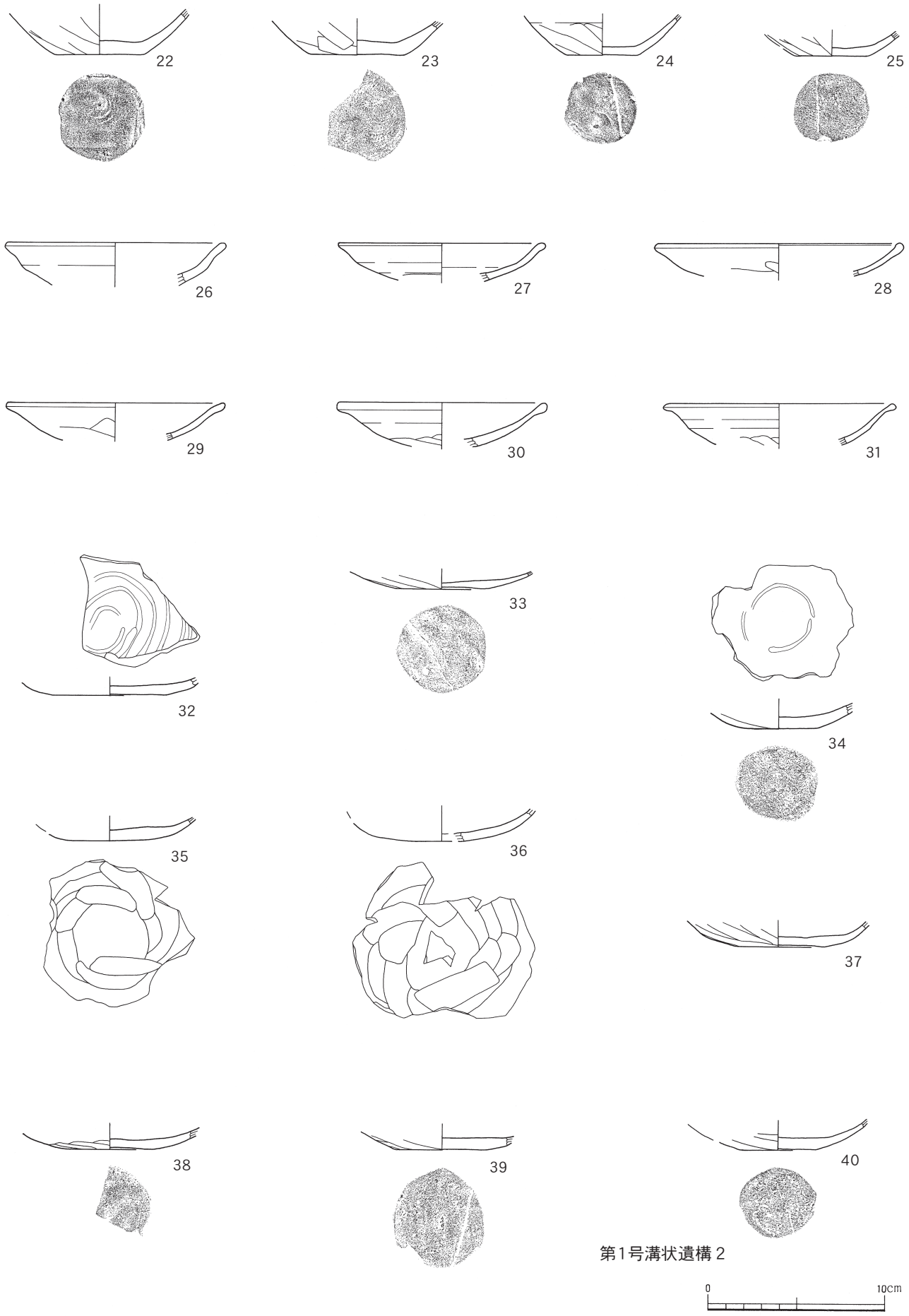
第3図　第4号住居跡・第2号溝状遺構・第2号土坑　平・断面図



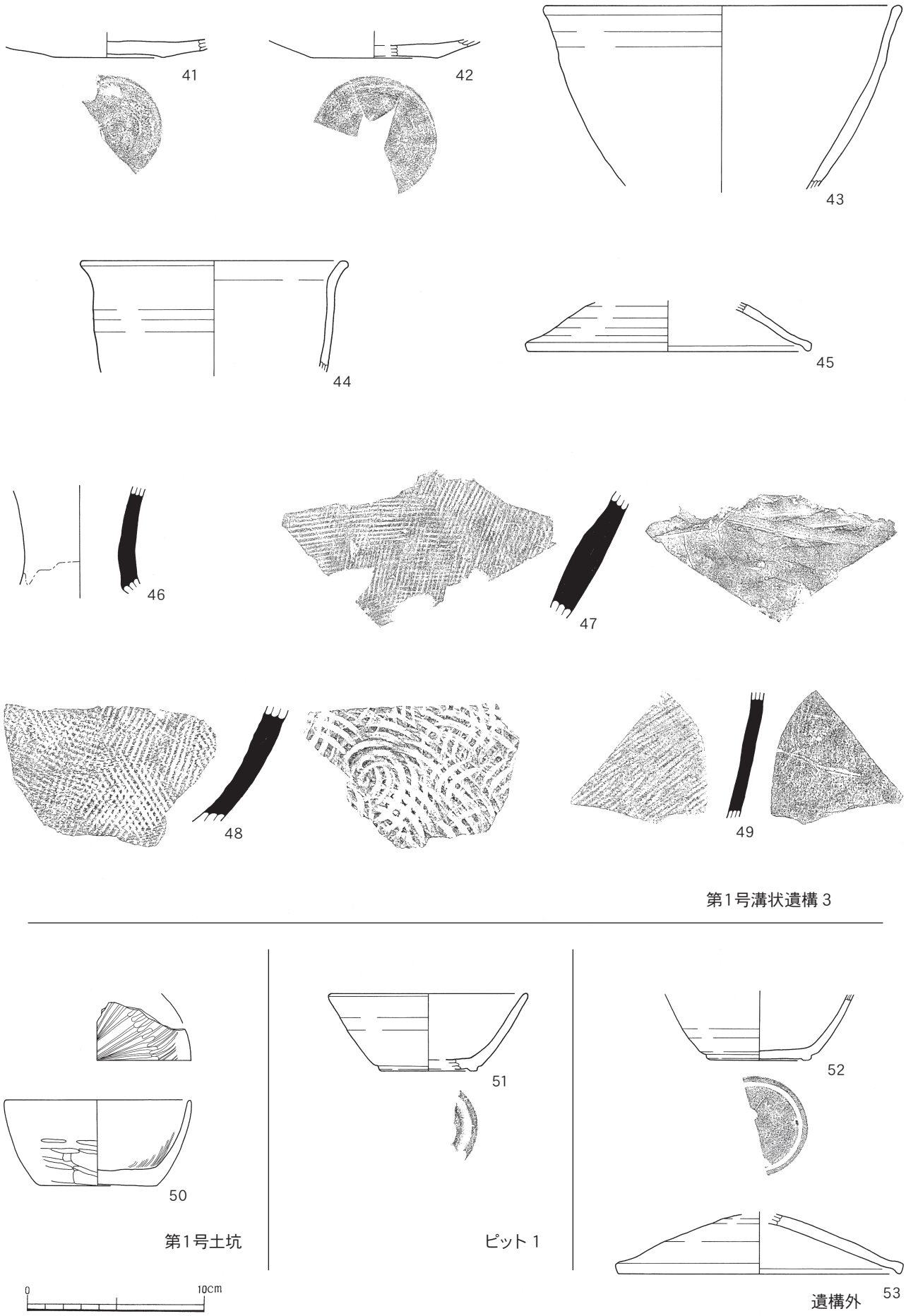
第4図　第1号溝状遺構・第1号暗渠・第1号土坑　平・断面図


1
2
3
4
第1号住居跡
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
第1号溝状遺構1
0
10cm

第5図　出土遺物1


22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
第1号溝状遺構２
0
10cm

第６図　出土遺物２


41
42
43
44
45
46
47
48
49
第1号溝状遺構 3
50
第1号土坑
51
ピット 1
52
53
遺構外
0
10cm

第7図　出土遺物 3

第１表　出土遺物観察表（1）

挿図番号	遺物番号	出土地点	注記番号	種　別	器　形	法　量（cm）			色　調	胎　土	焼　成	調　　整	時　代
						口径	器高	底径					
5	1	1住	P－5	土師器	坏	(10.9)	残3.8	－	橙	赤色粒子	良好	内面暗文 外面ヘラ削り	平安
5	2	1住	P－3	土師器	坏	(11.8)	残3.2	－	橙	赤色粒子	良好	内面暗文 外面ヘラ削り	平安
5	3	1住	P－7	土師器	坏	－	残1.0	5.0	灰褐色	赤色粒子	良好	内面暗文外面ヘラ削り 底部糸切り後ヘラ調整	平安
5	4	1住	P－2	土師器	蓋	－	残2.1	(16.1)	橙	赤色粒子 白色粒子	良好		奈良８C
5	5	1溝	P－3	土師器	坏	(10.8)	残3.8	－	明赤褐色	赤色粒子 金雲母	良好	内面暗文 外面ヘラ削り	平安
5	6	1溝	P－8	土師器	坏	(11.7)	残4.0	－	橙	赤色粒子	良好		平安
5	7	1溝	P－38	土師器	坏	(11.5)	残5.1	－	にぶい橙	赤色粒子 白色粒子 石英	良好		平安
5	8	1溝	P－24	土師器	高台坏	－	残1.3	(7.4)	橙	赤色粒子	良好	内面暗文 削り出し高台	平安
5	9	1溝	P－33	土師器	坏	(11.6)	残4.6	－	浅黄橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り	平安
5	10	1溝	P－32	土師器	坏	(12.9)	残3.9	－	にぶい黄橙	赤色粒子	良好		平安
5	11	1溝	P－33 P－35 P－38 一括	土師器	坏	(11.7)	4.0	4.6	黒褐色	赤色粒子	良好	底部糸切り痕	平安
5	12	1溝	P－43	土師器	内黒坏	(16.0)	5.3	5.9	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り 底部糸切り痕	平安
5	13	1溝	P－23	土師器	坏	(14.2)	残3.3	－	浅黄橙	赤色粒子	良好	外面ヘラ削り	平安
5	14	1溝	P－38	土師器	坏	(11.7)	残2.3	－	橙	赤色粒子 白色粒子	良好		平安
5	15	1溝	P－43	土師器	坏？碗？	(17.8)	残5.0	－	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り	平安
5	16	1溝	P－35 P－38	土師器	坏	－	残1.6	4.2	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	内面暗文外面ヘラ削り 底部糸切り後ヘラ調整	平安
5	17	1溝	P－38 一括	土師器	坏	－	残1.1	4.9	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	内面暗文 外面ヘラ削り	平安
5	18	1溝	P－35	土師器	坏	－	残1.9	4.1	浅黄橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り	平安
5	19	1溝	P－9	土師器	坏	－	残4.0	3.7	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り後指頭圧痕 底部ヘラ調整	平安

第１表　出土遺物観察表（2）

挿図番号	遺物番号	出土地点	注記番号	種　別	器　形	法　量（cm）			色　調	胎　土	焼　成	調　　整	時　代
						口径	器高	底径					
5	20	1 溝	P－32 P－34	土師器	坏	－	残 2.2	4.8	浅黄橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り 底部糸切り痕	平安
5	21	1 溝	P－43	土師器	坏	－	残 2.0	4.5	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り 底部糸切り痕	平安
6	22	1 溝	P－30	土師器	坏	－	残 2.3	5.0	浅黄橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り 底部糸切り後ヘラ調整	平安
6	23	1 溝	P－14	土師器	坏	－	残 1.8	(5.5)	橙	赤色粒子 白色粒子 黒色粒子	良好	外面ヘラ削り 底部糸切り痕	平安
6	24	1 溝	P－21	土師器	坏	－	残 2.2	4.0	橙	赤色粒子	良好	外面ヘラ削り 底部調整痕あり	平安
6	25	1 溝	P－38	土師器	坏	－	残 1.2	4.0	橙	赤色粒子 白色粒子 黒色粒子	良好	外面ヘラ削り 底部糸切り後ヘラ調整	平安
6	26	1 溝	P－11	土師器	皿	(12.0)	残 2.4	－	橙	赤色粒子 白色粒子	良好		平安
6	27	1 溝	P－31	土師器	皿	(11.4)	残 2.1	－	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り	平安
6	28	1 溝	P－40	土師器	皿	(13.4)	残 1.9	－	橙	赤色粒子	良好	外面ヘラ削り	平安
6	29	1 溝	P－21	土師器	皿	(12.0)	残 2.1	－	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り	平安
6	30	1 溝	P－35	土師器	皿	(11.5)	残 2.5	－	浅黄橙	赤色粒子 白色粒子 石英	良好	外面ヘラ削り	平安
6	31	1 溝	P－24	土師器	皿	(12.5)	残 2.3	－	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り	平安
6	32	1 溝	P－29	土師器	皿	－	残 0.7	(6.3)	褐色	赤色粒子 白色粒子 黒色粒子	良好	内面暗文	平安
6	33	1 溝	P－39	土師器	皿	－	残 0.9	5.0	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り 底部糸切り後ヘラ調整	平安
6	34	1 溝	P－35	土師器	皿	－	残 1.0	4.3	橙	赤色粒子 白色粒子 黒色粒子	良好	内面暗文 外面ヘラ削り 底部糸切り後ヘラ調整	平安
6	35	1 溝	P－30	土師器	皿	－	残 1.2	4.0	橙	赤色粒子	良好	底部～外面ヘラ削り	平安

第１表　出土遺物観察表（3）

挿図番号	遺物番号	出土地点	注記番号	種　別	器　形	法　量（cm）			色　調	胎　土	焼　成	調　　整	時　代
						口径	器高	底径					
6	36	1 溝	P－30 P－33	土師器	皿	－	残 1.7	3.4	橙	赤色粒子 黒色粒子	良好	底部～外面ヘラ削り	平安
6	37	1 溝	P－37	土師器	皿	－	残 1.3	(5.0)	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り	平安
6	38	1 溝	P－38	土師器	皿	－	残 0.8	(4.6)	浅黄橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り	平安
6	39	1 溝	P－30	土師器	皿	－	残 1.0	5.1	にぶい橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り 底部調整痕あり	平安
6	40	1 溝	P－27	土師器	皿	－	残 1.5	4.2	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	外面ヘラ削り 底部糸切り後ヘラ調整	平安
7	41	1 溝	P－6	土師器	皿	－	残 0.5	(6.2)	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	底部糸切り痕	平安
7	42	1 溝	P－1 P－2 P－5	土師器	皿	－	残 0.9	(7.0)	橙	赤色粒子	良好	底部糸切り痕	平安
7	43	1 溝	P－19 P－21	土師器	鉢？	(19.7)	残 10.1	－	浅黄橙	赤色粒子 白色粒子	良好		平安
7	44	1 溝	P－13	土師器	小甕	(14.7)	残 6.2	－	にぶい褐色	赤色粒子	良好		平安
7	45	1 溝	P－10	土師器	蓋	－	残 2.7	(15.7)	橙	赤色粒子 白色粒子	良好		平安
7	46	1 溝	P－42	須恵器	長頸瓶	－	残 5.3	－	灰白	白色粒子 黒色粒子	良好		平安
7	47	1 溝	P－16	須恵器	甕	－	－	－	灰白	白色粒子 黒色粒子	良好	内面ナデ 外面並行叩き	平安
7	48	1 溝	P－41	須恵器	甕	－	－	－	灰白	白色粒子 黒色粒子	良好	内面同心円状当て具痕 外面並行叩き	平安
7	49	1 溝	P－20	須恵器	甕	－	－	－	褐色	白色粒子	良好	外面並行叩き	平安
7	50	1 土	一括	土師器	坏	(10.2)	4.8	(6.6)	橙	赤色粒子	良好	内面暗文 外面ヘラ削り・磨	平安
7	51	1PIT	P－1 P－2	土師器	高台坏	(11.1)	4.4	(5.3)	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	削り出し高台	平安
7	52	遺構外		土師器	高台坏	－	残 3.7	(5.5)	橙	赤色粒子 白色粒子	良好	削り出し高台	平安
7	53	遺構外		土師器	蓋	－	残 3.3	(15.6)	橙	赤色粒子 白色粒子	良好		平安

写 真 図 版

調査前の状況

表土剥ぎの状況

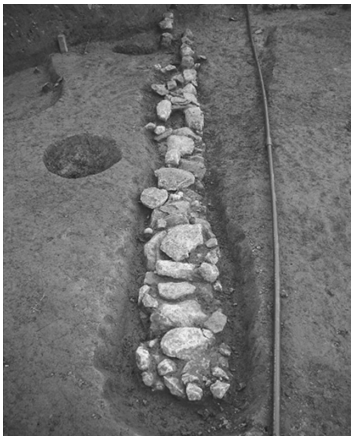
調査風景

基準杭の設置風景

第１号住居跡検出状況

第１号溝状遺構遺物出土状況

第2・3号住居跡検出状況



暗渠検出状況

近現代の石組み溝出土状況

写真図版４

第２号溝状遺構調査風景

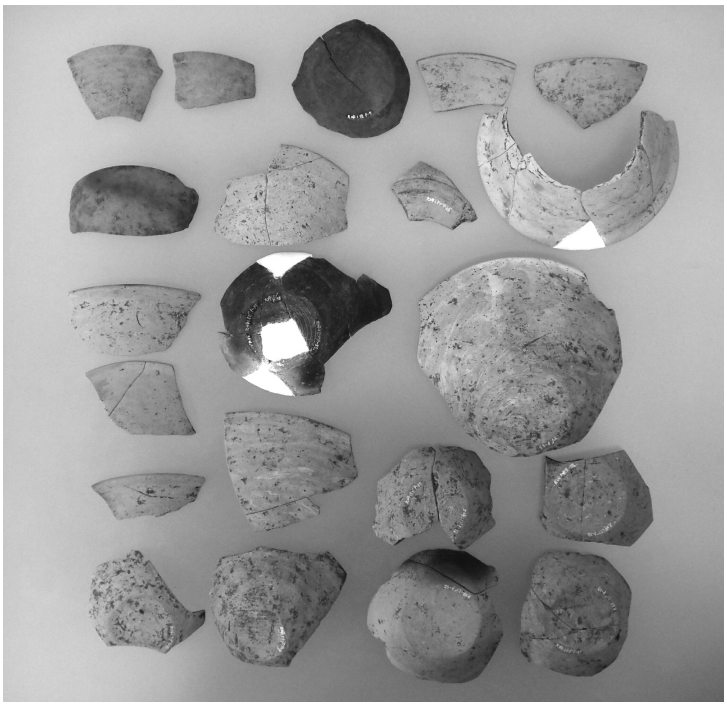
第４号住居跡検出状況

埋め戻しの様子

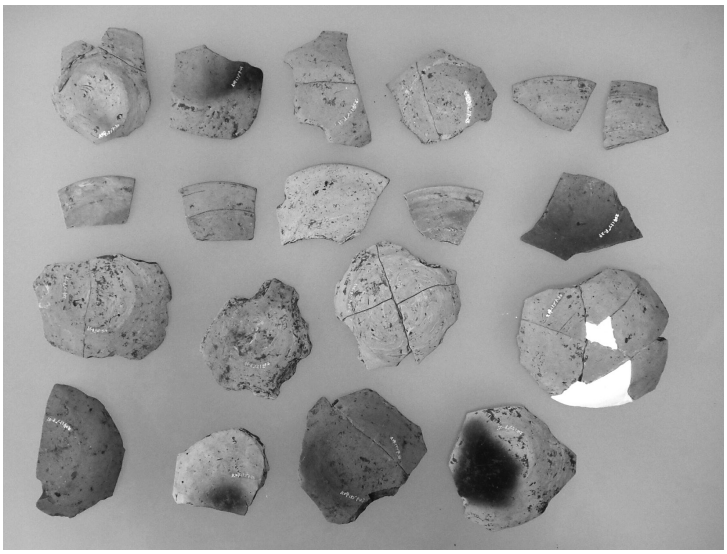
埋め戻し後の状況

北東側区画完掘状況

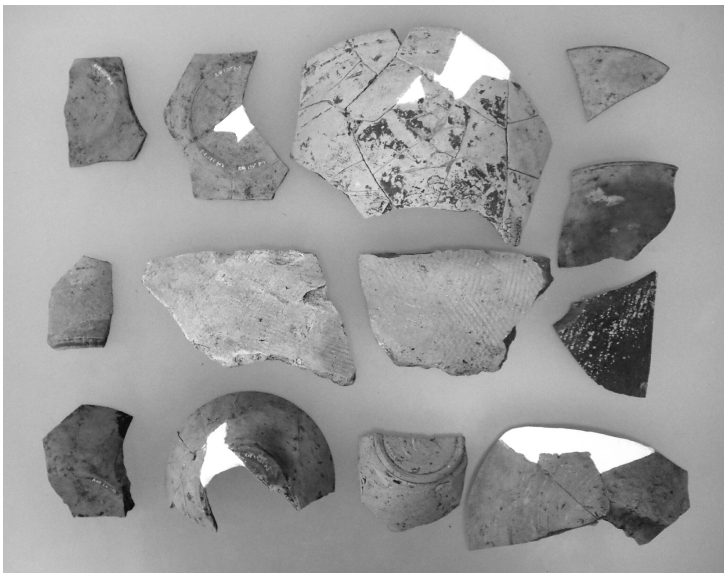
西側区画完掘状況



出土遺物 1 ～ 21



出土遺物 22 ～ 40



出土遺物 41 ～ 53

報　告　書　抄　録

ふりがな	おおつぼいせき
書名	大坪遺跡
副題	国道 140 号緊急道路整備改築事業に伴う発掘調査
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 300 集
著者名	浅川一郎・吉岡弘樹
発行者	山梨県教育委員会・山梨県県土整備部
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒 400-1508　山梨県甲府市下曽根町 923　　TEL 055-266-3016
発行年月日	2015 年 3 月 20 日
印刷所	株式会社　峡南堂印刷所

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地		コード		北緯 （新）	東経 （新）	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	遺跡番号					
おおつぼいせき 大坪遺跡	やまなしけんこうふし さくらいちょう 山梨県甲府市桜井町 634 － 3		19201	河－ 11	35° 39′ 57″	138° 34′ 05″	2014 年 7 月 7 日 ～ 8 月 8 日	200㎡	国道 140 号緊急道路整備改築事業
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
	集落	平安	住居跡 溝状遺構		土師器		第 1 号溝状遺構と遺構外からは多くの甲斐型土器が多量に出土している。特に第 1 号溝状遺構よりの出土資料はその状況から廃棄を明確に示すものと言えよう。		

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 300 集

大　坪　遺　跡

国道 140 号緊急道路整備改築事業に伴う発掘調査

印刷日　2015（平成 27 年）年 3 月 13 日
発行日　2015（平成 27 年）年 3 月 20 日
編　集　山梨県埋蔵文化財センター
〒400 -1508　山梨県甲府市下曽根町923
TEL 055-266-3016　FAX 055-266-3882
発　行　山梨県教育委員会
山梨県県土整備部
印　刷　株式会社　峡南堂印刷所